

(幕別町) 町民と考えるオリンピックの町ワークショップ (第5回) 議事メモ

コーディネーター	伊藤 伸
説明担当者 (自治体)	石田晋一、甲谷英司、佐々木寛人
日時	2019年6月29日 (日) 13時30分から15時55分まで
場所	幕別町札内コミュニティプラザ (幕別町札内青葉町311-11)
その他	参加者数 (町民) 5名、(短大) 1名、(オブザーバー) 5名 欠席者数 (町民) 6名、(短大) 1名 傍聴者数 (町民) 10名、(町外) 27名、(報道) 2名

趣旨・概要

第5回目は、第1回～第4回で議論してきた内容をまとめた提案書を基に、「オリンピックの町」にするために具体的に必要な施策や指標について議論を行い、参加者が提案書について追加・修正したい内容について意見提出シートに記入した。

第4回の振り返りと今日の進め方

コーディネーター

今日は、今まで皆さんと議論してきたことや改善提案シートの内容を踏まえてまとめた「町民と考えるオリンピックの町ワークショップからの提案」を基に、議論をすすめていきたい。

どこの市町村よりもオリンピックが多い理由を何度も議論してきて、1つだけの理由ではないことは共通の認識となり、理由1つ1つの要因の分析をしていく運びとなった。まず、第一に「食」というのが1つの切り口になっているのではないかという意見があったためその要因と分析を行うのが1つ。もう1つは、ほかの地域より幕別町はオリンピックに対しての身内意識が強く、その醸成が今回のテーマである「オリンピックの町」づくりに繋がっていくのではないかという話があった。このような要因の分析を行うその先に具体的に目指すものは何かというところで、1回目のワークショップの際に、運動・スポーツをする人たちの裾野を広げていくのか、もしくは、アスリートを育てるためいつでも競技性を高めていくのかという2つの話があったが、4回目はその両面を目指さしていくという話が多く出ていた。今後、5人のオリンピック選手もいつかは引退する。しかし、常にオリンピック選手又はオリンピック候補選手がいるような競技性が高い町を目指していき、また、単に運動・スポーツをするだけでなく、身近にオリンピック選手がいるため観戦や応援するなどの雰囲気を高めていくような話があった。

これらを踏まえて、今日は、この提案書について活発な意見をいただくほか、5年後でも持続して「オリンピックの町」であるためにはどのような事をしていけばいいのかという2つの話をすすめていきたい。

ワークショップ（協議）

コ) 最初に、皆さんと議論や意見をいただいた上で作成した提案について、事務局の意見や既に取り組んでいる内容等をいただきたい。

事) まず、提案1における地域の③「皆で集まりながらスポーツ観戦ができる環境を作る。」について。従来、車いすラグビーの日本選手権の予選リーグは北海道としては、岩見沢市でしか行っていなかったが、幕別町スポーツ合宿誘致実行委員会で誘致し、7月に道東では初となる幕別町での開催が決定した。観戦できるのはもちろん、体験会も同時に行われるものであり、この機会に障がい者スポーツに関心を深めることができるイベントである。

さらに、昨年も誘致した慶応義塾体育会野球部のスポーツ合宿が本年についても8月2日～8日に幕別町で行われることが決定した。詳細は、まだ決まっていないが昨年同様オープン戦等は行われる予定である。

そのほか、8月24日に日本クラブユース（U-15）選手権の決勝戦が幕別町で行われることが決定。

これらは、全て幕別町スポーツ合宿誘致実行委員会で誘致した事業であるため、地域といった観点で取り組んでいることを報告する。

続いて、提案1の行政の③「子どもたちがオリンピックと触れ合うチャンスをさらにつくる（学校訪問等）。」について。十勝毎日新聞でも掲載されたが、今年は幕別町出身の5人のオリンピックのイベントを企画しているところである。この提案のとおり、こういったイベントで子どもたちと触れ合える場となるため、詳細が決まり次第大々的に周知していきたい。

提案1の最後となる、その他の①「歴代のオリンピックの記録が残るものであれば、オリンピックの街と感じられる。」について。現在、幕別町には現役で5人のオリンピックが居るが、過去にスピードスケートでオリンピック選手を含めると合計8人のオリンピックがいた。そこで、オリンピックがその当時身に着けていたものや、道具、オリンピックにゆかりのあるものを展示するスペースを札内スポーツセンターと農業者トレーニングセンターで設置するための事業を進めている。

提案2について、該当する取り組み内容ではないが、今年は、連携協定を締結した日本体育大学（以下「日体大」という。）の講師を呼んで、昨今話題として多い、指導者におけるコンプライアンス問題（セクハラ、パワハラなど）に係る研修会を行う。

提案3の行政の①「町民が気軽に参加できるイベントやオリンピックが直接指導できるイベントを作る。」に係るイベントも企画段階にあるため、詳細が決まり次第告知していきたい。

提案4の地域の①「子どもから高齢者まで、気軽に参加できるスポーツイベントを地域オリジナルでやってみる。」について、様々な運動能力測定を行い、自分に向い

ているスポーツを判定できるイベントを企画している。これにより、今までやってきたスポーツ以外の判定が出て、他のスポーツに興味を持つきっかけになり、スポーツへの関心が高まる効果が想定される。

最後に、提案5の行政の①「大学等の研究機関と連携し、栄養学をもとにスポーツをする人にとって補うべき栄養素や食べ物を発表・紹介する。」について、協定を結んでいる日体大に食、スポーツ環境、指導者、気候等を含めて幕別町から多くのオリンピックが輩出されている要因の分析の準備を進めている。本格的な始動については、来年以降となる。

コ) 提案に対していくつか進行が見られた。これを踏まえて皆さんからも意見等をいただきたい。

オ①) なぜオリンピックが多く輩出されたのかを考えると、弛まぬ努力の成果である。年中かそれ以上、一生懸命練習して1分、1秒を争い掴んだ座である。そんな方たちを、今後、行政はもちろん町民も全面的にバックアップする体制が必要だと考える。「オリンピックの町」を定着させるにも毎年関連イベントを実施するべき。

オ②) オリンピアンを5人呼んでイベントが開催できたらとてもいいと思う。発信という観点で、私はラジオ局の者だが、自分たちとしてラジオや新聞などの広報でかなり発信しているつもりだったが、全然認知されていないことがわかり勉強になった。どの世代にも幕別町はオリンピックの町だというのを広めるには、SNSの普及が不可欠であり、様々な人が発信することが必要である。桑井選手はよく「#幕別町」をつけて投稿していることが多く、おかげで桑井選手のファンの方からの関心も得ることが出来ている。このように多くの関係者及び町民が発信することで「オリンピックの町」というのが広く浸透していく。

メ①) 提案を確認していくと、比較的、若年層に焦点を当てている提案が多く見える。幕別町の人口構成はそんなに若くないので、生涯スポーツという観点にも目を向け、高齢者へのフォローがあった方がいいと思う。また、その年によって年齢構成にも変化があるため、その都度提案内容も変化していくのが理想的である。

メ②) 今の提案を見る限り幅広く良いと思うが、運動・スポーツ＝健康のように連動していく様なテーマを作り、最終的にオリンピックの町まで繋がるようなものがあれば良いのでは。

メ③) オリンピアンを町を考えると同時に、高齢者へのフォローも考えていけるような雰囲気作りも大切だと思う。

コ) オリンピック選手が来るようなイベントを開催したら、子どもたちが喜ぶ話しは多く出ているが、高齢者も喜ぶのだろうか？

オ③) 年を重ねていくと、自分が運動することに対しては興味が薄れていくが、様々なスポーツで優秀な成果を挙げたアスリートが来るとなると年齢関係なく興味を持つものだと思う。

- コ) 先ほど話題に出たように毎年オリンピックを絡めたイベントを行うことで、町民からの関心を得ることができ、運動・スポーツへの意欲及び高齢者における健康維持にも繋がるということだが、これで、5年後にオリンピックの町と言われるのか？
- オ③) 5つの提案を全てクリアできたら、それはもうオリンピックの町と言えると思うが、提案の中で金銭面の話しが多く出てきており、自分ではその解決策が見えてこない。一番大きな問題として、これをどのような手法でクリアしていくかが大きな課題になる。そこで突破口となるのが提案5の「アスリートと食」だと考える。幕別町の特産品を加工する等して付加価値をつけることで経済効果も期待されると思う。
- コ) これからの話しだと思うが、日体大と多くのアスリートが輩出された要因の分析を具体的にどのように行っていくか方向性はあるか？
- 事) まだ担当教授も決まっていなく、具体的な話はしていない。まず、日体大に幕別町とはどういう町なのかを知ってもらうのが不可欠であるため、今年度の事業でこちらに訪れた際に知ってもらい、その際に見つけられた強みと5人のアスリートの共通点を掘り下げていけたらと考えている。
- コ) なぜ、日体大と連携協定を締結したのか？
- 事) 高木美帆選手が日体大に在籍しているという縁からはじまっている。
- 短) オリンピックの町というと、選手に目を向けられやすいが、アスリートと食のような選手を支える点に目を向けることも良いと思う。その中で指導者の育成という話しが出ていたが、オリンピックを指導していた指導者がその指導法を指導者に教えられるような場があれば良いと思った。
- コ) 幕別町にオリンピックを指導していたような方はいるのか？
- 事) 幼少期に高木選手たちを教えていた方はいる。
- コ) そのような方と連携して行う事業等を行ったことはあるのか？
- 事) パブリックビューイングの際に過去に所属していた監督・コーチに声掛けをしたことはあったが、それにタイアップして事業を行うようなことはなかった。
- オ④) 体育施設を管理していると思うことは、スポーツをされる方が非常に多い。親が昔からサークルに入っているなどスポーツを行うという土壌ができているから、その子どもたちもやっていて、スポーツを心から楽しむような風土があると感じる。
- メ④) 町民に忘れられないよう、オリンピックの町であるということを積極的に宣伝することが大事。関心が薄まってしまうと町としてオリンピックという財産を失ってしまうこととなるため、SNSなどの流行にも敏感になった方が良いと思う。また、スポーツだけだとしても関心を持っていないような人も居ると思うが、提案5のアスリートと食のように皆が必ず必要とするようなものに焦点を当てるとより町民も関与しやすいのではないか。
- オ⑤) やはり金銭面というところが一番の課題になると思う。提案2にもあるようにクラウドファンディングを活用し、皆を巻き込みながら、オリンピックをPRしながら

基金を貯め、その用途を町民が決めるというのは良い案だと思う。

コ) 行政で今までクラウドファンディングを検討したことはあるのか？または、行ったことはあるのか？

事) 幕別町の実態としてはふるさと納税以外の事例はない。

メ①) 町民としては、行政における税金の用途が気になる場所であり、おそらく税金の多くは高齢者などの手当などに多く使われてしまうと思うが、もし幕別町の健康寿命が延びればその分使うお金が減り、他の部分にお金を回すことができるはずだから、スポーツという観点での助成も十分に確保でき、待遇がよければその分人口の増加も見込めると思うので、5年後の幕別町の人口が増えていけばこの提案が成功したものと言える。

メ④) スポーツ関連ばかりの提案だと、スポーツが嫌いな人には何も響かないと思う。もっと人間的に興味、関心を持つようなことを行い、それがオリンピックに繋がるのが理想的だと思う。

コ) 最後に、本日の感想を含め、どのようになったら「オリンピックの町」となるか今一度皆さんより意見をいただきたい。

オ②) 最近、札内スポーツセンター及び農業者トレーニングセンターへ行くことが増えたが、旗が立っていて、アスリートの展示品があるなど、スポーツの町らしさが表に出てきて、他の地域の方が訪れてもスポーツを押ししているのだなと感じると思う。初回の話でも出ていたが、パブリックビューイングなどを行ったりしていても、オリンピックのことを知らない人が多くいた現状であったので、通年的に基本のお知らせ、ポスターや垂れ幕などがあるといつもオリンピックを身近に感じることができ、幕別町を訪れた人がオリンピックの町であるというのを感じると思った。

コ) 最初に事務局より話しがあった、オリンピックの競技用具などを展示する場所なども決まっているのか？

事) 札内スポーツセンターと農業者トレーニングセンターの2箇所が決まっている。

コ) 体育施設の中だと、対象者がスポーツを行う人に限られてしまう。今の構想として、スポーツをしない人でも確認できるよう、外に垂れ幕やポスターなどを掲示する考えはあるか？

事) 今はない。

オ①) 現在、幕別町がどういう町かと聞かれると、パークゴルフ発祥の地に次いで、オリンピックという名が通っていると思う。なぜ、オリンピック選手が輩出できているのかを突きとめるのが大切かと。

短) 5年後も絶対オリンピックが幕別町に居るとは限らないので、オリンピックに関する事業を継続していき、オリンピックがいなくなったとしてもその機運を大事にすることが大切だと思う。

メ①) 垂れ幕やポスターなどがあることで、町民がオリンピックの町だと自覚できること

にも繋がるため、表に見えるように宣伝することはすごく大切なことだと思う。

また、生涯スポーツの観点はやはり重要であると考えて。5年後にスポーツを行う人口（高齢者など）が増えて、手当てなどが多く、より住みよい魅力的な町になることで移住する人や出生者が増え、人口が増えることが具体的な目標だと考える。

コ) 健康面を強調していくということか？

メ①) 当然見える部分（掲示物）は大事だが、見えない部分（健康面）こそ土台となると思うので、より力をいれるべきだと考えた。

オ⑤) 行政としてオリンピックの時期だけでなく、恒常的に継続してイベントを行うことが重要だと思う。

メ⑤) 人が集まる場所に看板の掲示があるといい。

コ) 看板についての規制等はあるのか？

事) 写真は当然著作権の関係はある。また、設置する場所によってそれぞれ許可が必要である。現在、河川敷にパークゴルフの看板があるが、河川用地にあたるため国の許可をとったとのこと。

コ) 皆さんから多く意見の出ている看板等の掲示物を掲示し、全面的にオリンピックの町と周知していけば良いということだが、これは町の方向性を変えるということになると思う。現在、パークゴルフ発祥の地という看板があるので、そこに追加してオリンピックの町と追加するのもありだと思うが、特徴が多くなるとその特徴が薄れていく。幕別町もやるなら1個のほうがより浸透すると思う。

パークゴルフ発祥の地という特徴はやはり捨てられるものではないのか？思い切ってこの5年間オリンピックの町1本でやるのも手ではないか？

オ⑤) パークゴルフ発祥の地というのは外せない。特徴が2つあってもそれぞれ住み分け出来るので、どちらも薄れたりほしくないと思う。

メ⑤) そもそも話になるが、現在スポーツに重きを置いている家庭が少ないと思う。スポーツで食べていける人は一握りであり、親も勉学を優先させていることが多い。このご時世でスポーツばかりを考えるのは無理があると思う。オリンピックの町を目指すならどんな人でも関心をもつ施策を考えるべき。

短) 私は、小学校から継続してスポーツをやっていたので、運動をやらないという考えはなかった。高校生の中にはインドア派の人も結構いたが、外で一緒に遊んで楽しんだ記憶があるので、周りを巻き込んでいくと環境も変わってくると思う。

コ) たしかに巻き込んでいくのは大事だと思う。町民全員がスポーツをやるっていうのは、難しい話だが、健康維持のためにスポーツをしようとか、オリンピックの姿を見て自分も少し体動かしてみようとか、そういう動きがあると理想的であり、そのためによりスポーツが身近に感じる環境であることが大事だと思う。

オ⑤) 幕別町に入る境界に目に付くのぼりや、学校などに5人のオリンピックのポスターなどの目視できるものがあると意識が変化していくと思う。

また、スポーツ施設において実際にスポーツを行っている方だけに焦点をあてるのではなく、スポーツ中継を観ることができるテレビの設置や、少し談話ができるようなスペースを確保するなど、町民全員が訪れやすい雰囲気作りをすることで、より施設に訪れてもらえる町民を増やすことで、スポーツを身近に感じることができると思うので、その雰囲気作りが必要だと思う。

コ) 幕別にスポーツカフェなどというものはあるのか？

事) カフェなどはないが、スポーツ施設に大きいテレビがあり、スポーツ観戦はできる。

オ⑤) 少しずつだが、スポーツをしなくても訪れやすくするため、コーヒーの自動販売機の設置や、チャリティーイベントを開催するなど誰でも訪れやすい雰囲気作りはしている。

コ) 公共施設以外も含め、幕別町にそのような施設はほかにはないのか？

事) ない。

オ③) 最初の話しに戻るが、5つの提案がすべて出来れば、幕別町はオリンピックの町になると言ったが、それは、スポーツに溢れるという意味である。スポーツに溢れる町ということは、スポーツをやっている人はもちろん、やっていない人も含めての話しであって、例え五年後にオリンピックがいなくても恒常的にイベントが行われているなどスポーツに溢れている町になっていけば、オリンピックの町と掲げても不思議ではなく、町民全体に町の方向性が浸透しているはず。

オ②) 今まで、皆さんが出した意見、提案についてだが、言葉としては出てきたがそれを行動に移すのが中々難しいと思う。そこで、例年5月の最終水曜日行っている「チャレンジデー」がいわばスポーツの日であるので、そこにいろんな要素を絡めたイベントをするといい。

コ) 皆さんから多くの意見が出たが、前回も話したとおり、オリンピックの町というのは形あるものではないので、5年後に幕別町はオリンピックの町だと言える、ひとつの指標があればいいと話をしたが、皆さんの話を総括するとオリンピックの認知度が多く出ていた。現時点でアンケートでも5人のオリンピックを答えられない人がいたが、これを5年後には多くの方が5人とも答えることができれば、オリンピックの町に十分近づけていると思う。

他の案として、常にオリンピック選手がいるという話もあったが、たしかに生涯スポーツや、スポーツに溢れる町を目指すことから、優秀な選手は確かに増えるとは思いますが、オリンピックともなる中々難しいと思う。

最後に、5つの提案以外のものでも追加及び修正したいなどの意見があった際には、意見提出シートに記入して提出すること。